

地域安全マップで犯罪防止

立川ろう学校で作製授業

犯罪が起こりやすい場所を事前に予測し、犯罪から身を守る能力を身につける「地域安全マップ」を作製する公開授業が29日、立川市の都立立川ろう学校で開かれた。同マップは、立正大学の小宮信夫教授が犯罪機会論を元に発案し、全国の小学校や地域で普及を図っている。障害を持つ子どもたちを対象にマップ教室を開催するのは国内初。参加した同校小学部の4、5年生計15人は熱心に地図作りに取り組んだ。

冒頭、同校の信方幸統括校長は「(マップ作り教室が)特別支援学校で開かれるのは日本初です。どこが危なくて、どこが安全なのか、調べてほしい」と激励した。続いて小宮教授が授業を行った。危険な場所のキーワードとして「入りやすい場所」「見えにくい場所」を挙げ、道路、公園など具体的な例で手話を通して説明。クイズや寸劇を交えて分かりやすく教え、子どもたちも大きくうなずいていた。

この後、学校周辺の屋外を児童自らが調査。危険な場所、安全な場所はどこか、子どもたちは考えて写真を撮るなどし

立正大・小宮教授が指導 児童自ら調べ考える

午後には地図作りを行った。撮影した写真の場所が「なぜ危ないのか」「なぜ安全なのか」、子どもたちが考えた上、その理由を記したコメントを写真に添付。さらに地図に張り付けた。

子どもたちは発表で、「公園には木がたくさんあり外から見えにくく危険でした」「神社が危険だと思いました。入り口がたくさんあり入りやすいからです」と成果を報告した。

小宮教授は「実際の犯罪では、障害を持つ子どもだけが安全ということ



立川ろう学校小学部で行われた「地域安全マップ」づくり教室。子どもたちは真剣に取り組んだ

はない。すべての子ども なければならぬ。今日 たちを安全にするためにはその第一歩になった」(マップ作り教室を)やら と語った。【小野博宣】